

実践報告資料

研究テーマ『思いやりの心を持ち、互いに認め合い、支え合う生徒の育成』

～自律・自立を促し、自尊感情を高める～

研究内容【①、②、③、④】

学校名（多可町立八千代中学校）

ア 人権教育としてのねらい
「自他の違いを認め合い、一人ひとりの人権を尊重する」「誰もが安全で安心な学校生活を送れる」という人権感覚を養いながら、より良い人間関係を築こうとする態度を育てる。

イ 研究の概要

- ・ 人権意識を高め、一人ひとりの自律・自立を促し、自尊感情を高めるために組織的な取組を行う。
- ・ 日常生活におけるストレスを生徒自身が自己分析し、その対処法を学び、自分自身の心と体を大切にするとともに、他の人の心と体を大切にする手法を身に付けさせる。
- ・ 人権の歴史や現状、平和と人権に関わる問題などについて正しく理解し、差別を許さず、差別解消に向けて取り組もうとする態度を育てる。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	3年生家庭科担当	2年職員・アドバイザー	1年職員	全職員・SC
実施日	5月17日	10月5日	12月6日	1月23日
取組名	男女共同参画	外国人	インターネットの 人権侵害	心の健康教育
目標	性差によって役割が固定されることがないよう、家族の一員としての役割を考えさせ、男女共同参画の意識を育てる。	外国人や外国にルーツをもつ人の生活実態や願いを知り、共生社会の実現に向けて必要なことを考える。	インターネット上に潜む悪意や偏見・不合理・差別を見抜き、それらを解決する力を育成する。	怒りについて考える。怒りの感情が湧くことは自然なことであることを知り、怒りについて上手に付き合っていくコツを身に付ける。
資料名	『新しい技術・家庭 家庭分野』（東京書籍） 単元名「中学生としての自立を考えよう」	「翔の怒り」（きらめき）	『事例で学ぶネットモラル』 B-22 グループトーク でいじめ （広島教販）	ストレスマネジメント フォザネクスト STOP！イライラ大作戦 （東山書房）
指導内容や 指導方法の工夫等	自分の生活をふり 返り、家庭の仕事に 参画しているかふり 返させる。 グループ活動で家 庭の仕事についてど のようなイメージを もっているか話し合 うことで、偏った思 い込みがないか気付 かせる。 ふり返りシートで 意識の変革について 共有する。	主人公の決意から、 外国人の思いを仕方 なく受け止めることが 大切だと気付かせる。 日本や県内に在住す る外国人の人口や生活 実態などに関する資料 を併用し、理解を深め させる。 共生社会の実現は 人々にどのようなメリ ットを与えるか考えさ せる。	インターネットが身 近な存在であるがゆえ に安易なアクセスやコ メントによってトラブ ルに巻き込まれる可能 性について考えさせ る。 特に生徒が陥りやす い事例から、どのよう なトラブルが起こるか 考え、正しいネットモ ラルを身に付けさせ る。	教諭、養護教諭、S Cとがそれぞれの専門 性を生かし、協働で授 業内容や計画を決め る。 怒りという感情の自 身への影響、周りに与 える影響を学ばせると ともに、その感情を上 手にコントロールして 無用なトラブルを避け る方法を身に付けさせ る。

実施日：5月17日（1校時）	
領 域：教科（家庭科）	
取組名：男女共同参画	
対 象：3年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <p>性差によって役割が固定されることのないよう家族の一員としての役割を考えさせ、男女共同参画の意識を育てる。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と家族との生活をふり返って、家事の分担の現状について考える。 ・ 食べる、着る、住むなどの家族の営みを支える家事には、よく見られるもの以外に「名もなき家事」とも言われる小さな作業もあること、また、それら多岐にわたる仕事を担っている人が家庭にいることを考える。 ・ 男女共同参画社会の実現に向けて、より良い家庭生活にするための工夫を考える。 	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>学びを生かして、家庭での話題となるように声かけや情報提供を行う。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、ペアやグループ等でのコミュニケーションの機会を設定する。その際、友だちの意見交流を通じていろいろな意見があることを知り、友だちの意見を尊重する態度を育み、授業を通じて一人ひとりが大切にされる教育環境を意識してつくっていく。 ・ 授業中の観察指導や「ふりかえりシート」を通じて、他者の意見を踏まえて自身の意見を深めているかをみる。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中のペアやグループワークの観察 ・ 「ふりかえりシート」の記述 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想より家事の数の多さとそれを担っている家族の大変さを再確認できていた。 ・ 女性を中心となって行っている家事を「時間がある人」、「得意な人」などで分担することの必要性を感じる生徒が増え、家庭内で「もっと家事を分担してがんばってみよう」という思いをもつことができた。 	
<p>ク 課題</p> <p>「家庭生活と中学生としての自分との関わり」について考えることができる生徒が増えてきているが、固定的性別役割分担意識の解消の観点から考えるとまだ実感が薄いように思われる。さらに、男女共同参画の視点で考える機会を設定したい。</p>	

第3学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

- 1 題材 家族・家庭と地域 中学生としての自立を考えよう
- 2 ねらい 家族の生活の営みを支える仕事を通して、性差によって役割が固定されることのないよう家族の一員としての役割を考えさせ、男女共同参画の意識を育てる。
- 3 人権教育の内容 生命の尊厳についての学習 3－（1）－ア

4 展開

★評価（方法）

生徒の学習活動	工夫・留意点
<p>1 「お手伝いアンケート」の集計結果を知り、感想を発表する。</p> <p>2 学習の目標を知る。</p>	<p>○ アンケート結果を提示し、本時の課題設定につなぐ。</p> <p>★ 積極的に発表しているか。（観察）</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 家庭での自分の役割について考えよう。 </div>	
<p>3 家庭でよくありそうな日常会話について、誰のことばか予想し、その理由を考える。 A「おなかすいた。何かない？」 B「今作るから」</p> <p>4 チェックシートのどんな家事を誰が行っているかを記入し気付いたことをまとめる。 [個人] <div style="border-left: 2px solid black; border-right: 2px solid black; padding: 5px; margin-left: 40px;"> ・自分はあまり手伝いをしていない。 ・母がしている家事が多い。 ・父は家事をしていない。 </div> </p> <p>5 気付いたことを友だちと交流し、発表する。 [ペア→一斉]</p> <p>6 母(または祖母)が担当している家事が多い理由を考える。 [個人→グループ→一斉] <div style="border-left: 2px solid black; border-right: 2px solid black; padding: 5px; margin-left: 40px;"> ・家事が得意だから。 ・在宅時間が長いから。 ・昔の名残があるから。 </div> </p> <p>7 まとめ より良い家庭生活にする工夫を考える。</p>	<p>○ 自分の生活に置き換え、なぜそのように思うのかということに着目させる。</p> <p>○ 家庭の事情に配慮する。</p> <p>○ 家事を多く担っている女性がいることに気付かせる。</p> <p>○ 普段よく見られる家事以外の小さな家事にも意識する一端にする。</p> <p>★ 自分の生活をふり返り記述している。 (ワークシート)</p> <p>★ 自分の考えが発表できているか。 (机間指導・観察)</p> <p>○ 女性の家事負担の大きさを知り、その理由を考えさせる。</p> <p>★ 自分の考えを分かりやすく表現できているか。 (机間指導・観察)</p> <p>★ より良い家庭生活を送るために今自分ができることを具体的に考え、工夫している。 (ワークシート)</p>

ワークシート (チェックシート)

授業の様子

中学生としての自立を考えよう

年 月 日

(1)次の表の家事を主にやっているのは誰だろう。分指で色分けしてみよう。(30分等でもよい・わからなければ空欄)

	1	2	3	4	5
衣生活	洗濯物を洗う	洗濯物を干す	洗濯物をたたむ・収納	タンスに入れる	アイロンをかける
	11	12	13	14	15
食生活	ごはん・炊飯	おかずを作る	お弁当を作る	朝食を作る	お風呂・トイレ掃除
	16	17	18	19	20
	献立を考える	食材を買う	夕食を作る	洗濯を洗う	食器を片付ける
	21	22	23	24	25
住生活	郵便を届ける・ゴミ出し	部屋を片付ける	洗濯物を干す	トイレ掃除をする	風呂掃除をする
	26	27	28	29	30
	風呂を入れる	ゴミを捨てる・分別	ゴミを出す	ペット・植物の世話	食器を取り換える
	31	32	33	34	35
家族・仲間生活	家族の会話	お母さんやお父さんの話	お友達と話す	お母さんやお父さんに話しかける	学校に話しかける
	36	37	38	39	40
	お母さんやお父さんに話しかける	お友達と話す	お友達と話す	お友達と話す	お友達と話す

人数を数えよう。

自分(子ども)	父(祖父)	母(祖母)	その他
0	0	0	0

気づいたこと

.....

.....

.....

.....

今よりも家庭生活にするにはどうすればいいか。工夫点を書きましょう。

.....

.....

.....

.....

★振り返り★



生徒の感想

- 自分と父親(のしている家事)を合わせても、母親の数には届かなかったです。やっぱり家事は母親に負担がかかっている感じなので、できるだけ手伝いたいと思います。(男子)
- 母のしている家事が多すぎでした。工夫して母を手伝いたいと思いました。家以外のところに手伝ってもらうことも必要だと思いました。自立した人間になりたいと思いました。家事が得意になりたいです。(女子)
- 家の事情もあるけど家事をしているおばあちゃんやお母さんが多いなと思いました。私ができることはしているけど、今よりもできることはあると思うので少しでも親の負担を減らせるようもう少しお手伝いをしようと思った。(女子)
- より良い家庭生活にするためには、家事の分担をすることが大切だと思った。母がほぼ家事をしていて、僕も分担してがんばってみようと思った。家族で支え合って生活していきたい。(男子)
- 改めて家事をしている人とかを見てみて親、特に母親がほとんどで、また、感謝する機会があったら伝えたり、家事を手伝ったりしようと思いました。(男子)
- 周りの人に頼り過ぎずに自分から動いていこうと思いました。将来一人暮らしや寮生活などの時にしっかり自立していきたいです。(男子)

実施日：10月5日（6校時）	
領 域：道徳	
取組名：外国人	
対 象：2年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい 外国人や外国にルーツをもつ人々の生活実態や願いを知り、共生社会の実現に向けて必要なことを考える。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 兵庫県や多可町にどれくらいの外国人が住んでいるか資料を使って確認する。 ・ 資料「翔の怒り」を読んで、「翔」が何に腹を立てているのかを考える。 ・ 「パウロ」の笑顔を取り戻すために、どんなことができるのかを考える。 ・ 外国人との共生社会の実現は全ての人の生活を豊かにすることを理解し、共生には地域社会の理解と支援が必要なことを考える。 	
ウ 連携先：家庭、地域	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを生かして、家庭での話題となるように声かけや情報提供を行う。 ・ ALT や地域に住む外国人の方との交流会を企画し、日本で暮らしていてどのようなことに苦労しているか話を聞く機会を作る。 	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「主体的・対話的な深い学び」をめざし、全員発表の機会を設定する。発言に対して教師から問いかけを行い、学びを深められるようにする。他者の意見に対してどう考えるかという発表の機会も設け、一つの意見に対して、更なる深まりが得られるように工夫する。また、級友の意見を尊重する態度を育み、授業を通じて一人ひとりが大切にされる教育環境を意識してつくっていく。 ・ 授業中の観察指導や「ふり返りシート」を通じて、他者の意見を踏まえて自身の意見を深めているかをみる。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発言の聞き取り ・ ふり返りシートの記述 	
<p>キ 成果</p> <p>身近に外国人がほとんどいないため、今回初めて「外国人」について考えた生徒もいた。近隣の市町村では多くの外国人就労者がいることに気づき、共生社会で様々な課題があることも知ることができた。生徒たちは外国人に対する偏見はなく、困っていれば積極的に助けたいという意識がある。外国人との共生社会の実現に向けての取組が地域にも広がることをめざしたい。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>地域に外国人がほとんどいないこともあり、生徒は外国人の思いを知る機会や社会にどのような支援体制があるのかといった知識が乏しい。そのため、出てくる意見の中には、自分本位（日本人側の意見）なものも多く、外国人の立場に立って考えることのできない生徒もいた。将来、国際社会に出て行くであろう生徒もいる中で、本当にそのような自分本位な考えでいいのかということも考えさせていかなければならない。今後、外国人に対しての理解を深めるため、各教科と連携しながら学習していく必要がある。</p>	

第2学年2組 道徳科学習指導案

- 1 題 材 翔の怒り（出典 中学生用教育資料 きらめき一個性光らせてー）
- 2 ねらい 外国人や外国にルーツをもつ人々の生活実態や願いを知り、共生社会の実現に必要なことを考える中で、思いやりの心をもって人と接しようとする道徳的实践意欲を育む。
- 3 人権教育の内容 3－（2）－ア
- 4 主題設定の理由

他の人との関わりの中で、温かい心と心のふれあいのすばらしさを理解し、思いやりの精神を身に付けていくことは社会で生きていく上で必要なことである。「思いやりの心」をもって人と接したり、困っている人がいれば、その人が何か助けを必要としているかを考えたりすることは、人間として非常に重要な力である。しかし、人間同士のつながりが希薄になりつつある今日では他の人を思いやったり、他を気かけたりすることができなくなっている生徒が多くなっている。国際化が進む日本においても、身近な人のことから「思いやりの心」をもって接しようとすることはとても大切なことである。

本学級の生徒は、男子8名、女子12名の合計20名で構成されている。生徒たちは、2年生より2クラスになり、新しく友人関係を作ったり、トライやるウィークを通して人と人との関わりを学んだりして、人との関係の大切さを学んできた。一方で、他人を理解しようとせず、自分よがりな考えから、人間関係についての問題がよく起こっている。生徒一人ひとりが他者の立場に立ち、多様性を受け入れる力を身に付け、社会の中で大切にされる人になれるような社会性を養いたい。

兵庫県内には、総勢111,940人（2021）の在留外国人が暮らしており、多可町内にも304人の在留外国人が暮らしている。在留外国人へのアンケートでは、日常生活での悩みとして、多くの方が「言葉が通じない」や「文化や習慣の違い」という回答されている。本資料でも、そのような悩みをもつ在留外国人の姿が描かれている。ブラジルから来たパウロが、先生や友人の助けを借りながら笑顔で生活できるようになった一方で、パウロの母親は、勤めている工場のことばや文化の違いによる壁にぶつかっている。母親は同僚から煙たがられ、パウロや同僚に、ブラジルに帰りたいと話し、その出来事がパウロから笑顔を奪い去り、翔はどうすればパウロに笑顔が戻ってくるのか、クラスの人々と考えようとしている。

本時の指導においては、パウロの笑顔を取り戻すために、どんなことができるかを考える。また、外国人や外国にルーツをもつ人々の生活実態や願いを知ること、困っている人の立場に立って考えて行動することの大切さを知り、共生できる社会を作るための自分の役割について考えさせたい。そして、外国人や外国にルーツをもつ人だけでなく、より身近である家族や友人に対しても、思いやりの心をもって接しようとする道徳的实践意欲を培いたい。

5 本時の学習

（1）準備物

資料、タブレット

(2) 本時の展開

	学 習 活 動	発問と予想される生徒の反応	留 意 点		
導 入	<ul style="list-style-type: none">兵庫県や多可町にどれくらいの外国人が住んでいるか確認する。教師の範読を聞く。	<div>「翔の怒り」という資料を読みます。</div>	<ul style="list-style-type: none">兵庫県や多可町に多数の外国人が在住していることを確認し、外国人が身近な存在であることを理解させる。翔になりきって読む。ゆっくりと読む。		
展 開	<ul style="list-style-type: none">翔の心に灯った「あたたかな灯」について話し合う。翔が母の話聞いた後に腹を立てた理由について話し合う。パウロの話聞いた翔がとるべき行動について話し合う。	<div>翔の心に灯った「あたたかな灯」とは、どのような気持ちを表しているのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none">パウロの役に立ててうれしい気持ち。外国人の仲間と気持ちが通じ合えた実感。 <div>翔は、なぜ腹が立ってきたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none">母は気にしていると言いつつ、具体的な行動に移さないことに不満があった。困っている人に救いの手を差し伸べない周囲の人たちの態度に怒りを覚えた。パウロと母の言い争いに声をかけられず帰った自分に腹が立った。 <div>パウロや母は何に悲しんでいるのでしょうか。</div> <table><tr><td>パ・母が悲しんでいる。<ul style="list-style-type: none">母にも自分のようにことばを教える人をつけてほしい。</td><td>母・ことばが分からない。<ul style="list-style-type: none">自分のことを理解し、助けてくれる人がいない。</td></tr></table> <div>パウロの笑顔を取り戻すために、どんなことができるのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none">パウロの思いや悩みを受け止める。クラスの仲間にパウロの思いを伝え、パウロをみんなで支えていこうと呼びかける。パウロのお母さんの悩みや願いを知り、支援団体の情報等、解決のための方法について研究し伝える。	パ・母が悲しんでいる。 <ul style="list-style-type: none">母にも自分のようにことばを教える人をつけてほしい。	母・ことばが分からない。 <ul style="list-style-type: none">自分のことを理解し、助けてくれる人がいない。	<ul style="list-style-type: none">自分から声をかけ、小さなことから助け合うことが共生への第一歩であることに気付かせる。外国人との共生には地域社会の理解と援助が必要なことに気付かせ、外国人が就労している職場も重要な地域コミュニティであることを認識させる。そのまま帰ってきた自分に対する怒りでもあることを理解させる。パウロの母がブラジルを愛し、母国への誇りをもっていることを理解させる。パウロやパウロの母は何に悲しんでいるのか確認する。外国人の思いを周囲の人がしっかりと受け止めることが大切であると気付かせる。外国人の支援団体やその活動の情報を収集し、伝えていく必要性があることを理解させる。共生社会の実現は全ての人の生活を豊かにしていくことを理解させる。
パ・母が悲しんでいる。 <ul style="list-style-type: none">母にも自分のようにことばを教える人をつけてほしい。	母・ことばが分からない。 <ul style="list-style-type: none">自分のことを理解し、助けてくれる人がいない。				
終 末	<ul style="list-style-type: none">教師の説話を聞く。今日の授業の感想を書く。	<div>今日の授業の感想を書きましょう。</div> <ul style="list-style-type: none">困っている人のために何ができるのか考えることが大切だと思った。考えることだけでなく、困っている人のために行動できるようになりたいと思った。	<ul style="list-style-type: none">「翔の怒り」を読んで、外国人だけでなく、身近な友だちにも手を差し伸べられることが大切だということを理解させる。パウロのために奮闘する翔を通して、何を考えたのか、どう思ったのかについて書かせる。		

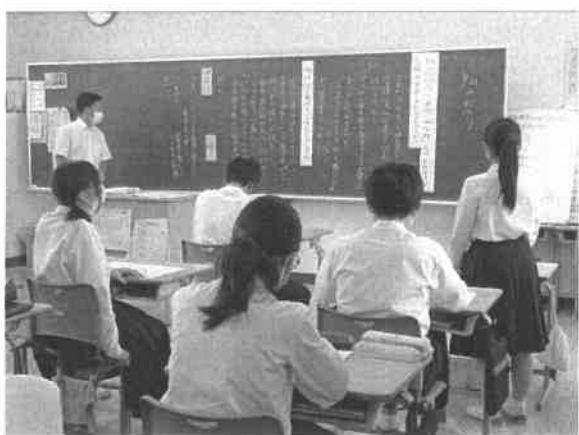
生徒の感想

【授業を通して、ある程度自分ごととして考えられた生徒の感想】

- ・ パウロのお母さんが、ことばを覚えるのも大切だけど工場で働いている人がパウロのお母さんが思っていることを感じることも大切だと思いました。話せないから自分の思いを伝えられないのは当たり前だけど、表現や行動からでも感じることはできると思いました。
- ・ 外国の人で日本語が分からない人に対して日本語が分からないことだけで諦めてしまうのではなくその人に寄り添ってあげるのが大事だと思った。
- ・ 外国の人だけ日本語を覚えるという努力をするのではなくて、日本人の自分たちも日本語を教えてあげるとかその外国人の母語を覚えるとか、いくらでも探せば方法は見つかると思う。だから「あー、この人は外国人やから仲良くできひんかもなー。」で諦めるのではなくて、仲良くできる方法を見つけるのがお互い幸せに暮らせる簡単な方法じゃないのかなと思いました。
- ・ 外国人っていうだけで、壁を感じてしまうけど、ちょっとずつ話したり関わったりしてお互いを知っていくのは大事だと思いました。
- ・ 言語よりも、仲良くしようという気持ちが大事だと思った。

【授業を通して、自分ごととして深められなかった生徒の感想】

- ・ 日本好きで来たのに何も勉強しないで来るのはおかしいと思うし、計画性がないと思った。
- ・ パウロはパウロのお母さんに日本にいるために納得させて日本語を覚えさせたらいいと思います。どこの国でもコミュニケーションは大切だと思いました。
- ・ パウロは真剣に覚えようとしていたけどパウロのお母さんは覚える気がなかったから、もっと覚えるようにするとパウロみたいに馴染めると思った。



▲授業の様子



▲ふり返りの場面

実施日：12月6日（6校時）	
領 域：特別活動	
取組名：インターネットの人権侵害	
対 象：1年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット上に潜む悪意や偏見・不合理・差別を見抜き、それらを解決する力を育成する。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループトークで困った経験を話し合う。 ・ 動画（登場人物とキーシーン）を視聴して、悪口がたくさん書き込まれていじめになってしまった理由を考える。 ・ いじめが起こった理由から、どうしていればいじめを回避できたのかを話し合う。 ・ まとめの動画を視聴し、ネットで気を付けることを発表する。 	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>学びを生かして、家庭での話題となるように声かけや情報提供を行う。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「主体的・対話的な深い学び」をめざし、ペアやグループ等でのコミュニケーションの機会を設定する。 ・ 八千代中学校でお試し期間で導入している情報モラル教育コンテンツ（「事例で学ぶネットモラル」）を使用し、事例の動画を視聴することで、より自分ごととして考えられるようにする。 ・ 机間指導や発表、ふり返しシートで今後、ネットを使用するときによいようなことに気を付けようとしているかを評価する。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中のペアやグループワークの観察 ・ ふり返しシートの記述 	
<p>キ 成果</p> <p>情報モラル教育のために開発されているコンテンツを使用することで、効果的にネットモラルについて考えられた。グループトークの「いじめ」は誰かのちょっとした発言がきっかけで始まることが多い。今回の事例は生徒にとっても他人ごとではなく、自分のこととして考えることができた。今後、自分がグループトークに参加するとき、今回学んだことが生かせるのではないかと思う。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>ネットでの人権侵害は決して一つではなく、状況によって新たに出てくるものである。今回はグループトークでの問題から生徒たちは、ネット上で安易に発言しないことなどを考える機会となった。しかし、別のコンテンツを使用する場面で、今回学んだことを応用できるかというと、まだまだ不安な面もある。情報社会において、今やネットはなくてはならないものであるし、教育現場でも活発に使用されている。様々な場面で学んだことが生かされるよう、多くの事例から学び続ける必要がある。</p>	

第1学年 特別活動（情報モラル教育）学習指導案

- 1 題 材 グループトークでいじめ「そんなつもりじゃなかったのに・・・」
- 2 ねらい インターネット上に潜む悪意や偏見・不合理・差別を見抜き、それらを解決する力を育成する。
- 3 人権教育の内容 インターネットの人権侵害 2－（2）－ア
- 4 準備物
 - ・ クロームブック2台（指導案、事例で学ぶネットモラル・ワークシート・ICC）・イヤホン
 - ・ タッチペン・大型モニター2台（動画用と ICC 用）
- 5 展開

	学習活動	指導上の留意点・教師の発問と予想される生徒の反応
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> グループトークで困った経験を話し合う。 動画を視聴する。 (4:25まで) 	<ul style="list-style-type: none"> どこで終わりにするか、反応すべきかどうか、ことばや情報の選択、写真やスタンプの扱い方、気軽に書き込めるのでノリが良くなってしまう ストーリーを確認する。 (登場人物とキーシーン)
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> 悪口がたくさん書き込まれていじめになってしまった理由を考える。 いじめが起こった理由を考え、どうしていれば良かったかを話し合う。 	<p>どうして悪口が書き込まれたのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の書き込みを見て何でも書いてもいいと思った みんなやってるからエスカレートしていった <p>写真があったことで影響はあったのか</p> <ul style="list-style-type: none"> より書き込みが激しくなった 実際の場面が想像できた 言いやすい雰囲気になった <p>3人はどうすればよかったのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 試合後のアドバイスは直接言う 文字では本当の気持ちが分からない 本人が許可していない画像は載せない <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★ 不特定多数の人が見る場所であるグループトークに加え、DMなどの個人のやりとりでも悪口を書き込み、画像の転載やコピー、加工は良くないことを押さえる</p> </div>
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> まとめの動画を視聴した後(4:25以降)、気を付けることを発表する。 感想を記入する。 	<p>ネットでいじめを起こさないために気を付けること</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット上に悪口は書き込まない 誰が見ても大丈夫な内容を書き込む 画像を勝手に載せない 困ったときには関係機関や大人に相談する これからトークアプリを使用する際に気を付けたいことを踏まえ感想を書かせる。

板書計画

グループトークでいじめ

「そんなつもりじゃなかったのに・・・」

グループトークで困った経験

- ・どこで終わりにするか、反応すべきか、言葉や情報
の選択、写真やスタンプの扱い方、ノリで…

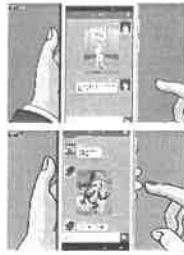
どうして悪口が書き込まれたのだろう



- ・最初の書き込みを見て何でも書いてもいい
と思った

- ・みんなやってるからエスカレートした

写真があったことで影響はあったのか



- ・より書き込みが激しくなった

- ・実際の場面が想像できた

- ・言いやすい雰囲気になった

3人はどうすればよかったのだろう



- ・試合後のアドバイスは直接言う

- ・文字では本当の気持ちが伝わらない

- ・本人が許可していない画像は載せない

ネットでのいじめを起こさないために気を付けること

- ・ネット上に悪口は書き込まない

ワークシート

そんなつもりじゃなかったのに…

_____年 _____組 _____番 名前_____

☆トークアプリの「グループトーク」で困ったことはありましたか？

- ① たくさんの人がたけしさんの悪口を書き込んだ理由は何でしょう。
- ② 3人はどうすればよかったか考えましょう。
- ③ ネットでのいじめを起こさないために、どうすればいいか考えましょう。

☆トークアプリの「グループトーク」を使う時に、これから気をつけたいことは何ですか？

[別紙③]

動画の内容

バスケットボール部は練習時間の連絡などにグループトークを使っている。ある日の練習試合後「たけし」のシュートが原因で負けたと「まもる」「こうじ」「さとる」が話をしていた。そのとき「まもる」が「たけし」のシュート写真を撮っていて「こんなみっともないシュートを打ってるから駄目なんだ」と3人で盛り上がった。「こうじ」が「写真付きでグループトークにあげて「たけし」に反省してもらおう」と提案する。そこで「まもる」が投稿した。翌日、グループトークを見ると、多くの部員が「たけし」の悪口を投稿し、写真がひどい状態に加工されていた。いじめに発展してしまったことに責任を感じた3人は「たけし」に謝ろうとするが、「たけし」はそのグループトークが原因で学校に来られなくなってしまった。

生徒の感想から

- ・ 相手の気持ちを考えて、その発言によって、何が起こるかをしっかりと考えたい。自分が言ったことばは相手だけではなくて、きっと自分にも返ってくるという気持ちを忘れないでおこうと思う。
- ・ 送る前に必ず、自分の書いた文面を確認しようと思う。送ったらいけないことばがないか、また相手が迷惑だと思う時間には送信しないようにしたい。
- ・ グループトークには、絶対に個人向けの情報を送信しないようにする。全体に向けての連絡とかに限定して使うようにしたい。
- ・ 写真を送るときは、写っている人全員に許可を取るようにしたい。



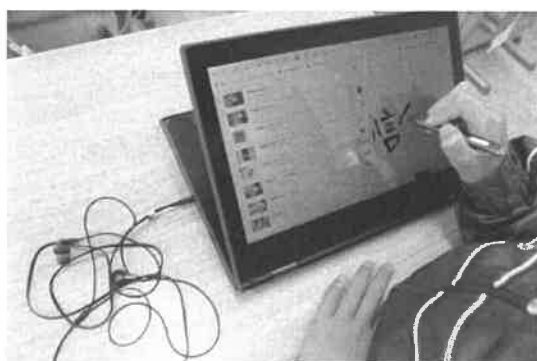
▲生徒が見ているデバイスの画面一覧



▲「事例で学ぶネットモラル」の動画画面



▲グループ活動



▲生徒のタブレット画面

様式 2

学校名（多可町立八千代中学校）

実施日：令和5年1月23日	
領 域：総合的な活動の時間	
取組名：STOP！イライラ大作戦	
対 象：1年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 怒りの影響を知る。 ・ 自分の怒りについて知る。 ・ イライラへの対処法（STOP）を知る。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレスをイメージする。 ・ ストレスの発生メカニズムについて知る。 ・ 怒りの影響を知る。（ココロ、カラダ、人、経済） ・ 自分の怒りに気付く。 ・ 怒りへの対処法を知る。 ・ イライラしてはいけないのではなく、イライラしたときは、その気持ちをうまくコントロールして、無用なトラブルを避けられるにする。 	
ウ 連携先：家庭、地域、町教委	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>学校 HP や学年通信で学習内容や授業後の感想等を発信する。また、授業後の感想で、学校生活や人間関係で悩んでいる生徒に対しては懇談を行い、懇談後には家庭に連絡を取り、その情報を共有している。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心の健康教育は3年間を通して実施しており、今回の学習はその一部である。2年生へと進級するが、ストレスコーピングなどの授業が続く計画になっている。 ・ ストレスチェックを行い、SC からアドバイスを受ける。そして、各自が自分のストレスについて理解し、分析をする。その結果を踏まえて担任と懇談を行い、悩みの相談やストレスの対処法を知る。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言や活動 ・ 感想文 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレスの発生メカニズム、怒りの影響について理解することができた。 ・ 自分が怒りを感じる場面を確認することができた。 ・ 怒りの影響（ココロ、カラダ、相手、経済）について知ることができた。 ・ 怒りを感じたときの対処法を知ることができた。 ・ 対処方法を実践し無用なトラブルが減った。 ・ 怒りへの適切な対処は、自分を大切にすることというに気付くことができた。 	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回だけの授業では、知識が定着しない。学校生活のあらゆる場面で本時の内容に触れていく必要がある。 ・ 望ましいストレスコーピングを身に付けるためには、継続的な指導が必要である。 ・ 心の健康教育は、始まって間もない。カリキュラムについて絶えずアップデートが必要である。 ・ 授業実践をするための研修が必要である。 ・ ストレスチェックも行っているが、解釈が難しい場合がある。SC との連携が必須であるが、出勤日数限定的で、すぐに相談したくてもできないことがある。 	

第1学年 学習指導案（総合的な学習の時間）

1 主 題 心の健康教育～「STOP！イライラ大作戦」～

2 指導にあたって

教材観

現在、学校には、「困難な事態、強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付ける等のための教育又は啓発」や、「児童生徒が社会において直面する可能性のある様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育（SOSの出し方に関する教育）、心の健康の保持に係る教育」を推進することが求められている。これに応えるべく、多可町では、小学校6年間、中学校3年間、計9年間で「多可町心の健康教育」に取り組んでいる。本校でも、多可町教育委員会が示すカリキュラム案を参考に、実態に即した指導計画（別紙資料⑦参照）を作成している。1年生では、1学期「心のセルフケア」、2学期「パーソナルスペース」、3学期「怒り」を学ぶことになっており、2年生、3年生へと心について学びを深めていくことになっている。

扱う教材は、「ストレスマネジメント フォーザネクスト」（ストレスマネジメント教育研究会（PGS）編「東山書房」）の内容である。今回実施する、「第4章 集団を対象に1単位時間で行うストレスマネジメント教育「STOP！イライラ大作戦」」では、怒りの影響について、自身の怒りについて、イライラへの対処法について学ぶことをねらいとしている。感情には様々なものがあるが、その中でも怒りという感情は、表現の仕方次第で自分や他者を不幸にしまう。円滑でより良い人間関係を築くためには、怒りを正しく理解することが大切である。

生徒観

本学年の生徒数は45名（うち特別支援学級生徒2名）で、辛うじて2クラスを保つことができています。小学校でも1学級あたりの児童数は少なく、地域からの温かい見守りもあり、手厚い教育を受けてきたといえる。また、校区には田園風景が広がり、三世帯家族が多い。1小1中という環境のもと、多くの生徒の関係性は、特に小学校で築いたものがそのまま続いているようである。孤独感や絶望感に苛まれる経験も少ないようで、そのためか非行に走ることもなく素直な生徒が多い。しかし、その反面、何かストレスがかかると、必要以上に心が不安定になる生徒が多いことも否めない。中学校入学というストレスに対してうまく対処することができず、学校生活がうまくいっていない生徒、人間関係が不安定になっている生徒も見受けられる。中には、「怒り」の感情が湧いたとき、その表現の仕方が周囲に受け入れてもらえず、今までの関係が崩れている生徒や誤解されている生徒もいる。

指導観

自殺対策基本法（平成18年法律第85号）、自殺総合対策大綱（平成29年7月25日閣議決定）の趣旨を踏まえ、本町では令和2年度より、「多可町心の健康教育」を推進している。推進にあたり、本校では、「ストレスマネジメント フォーザネクスト」（ストレスマネジメント教育研究会（PGS）編「東山書房」）をカリキュラムに組み入れている。

本教材を活用し、まず、「怒り」の感情が湧くことはごく自然であることを理解させ、生徒を安心させる。次に、その「怒り」の表現が下手だと、自身の心身に悪影響を与え、周囲との関係もしんどくなり、経済的にもダメージを受けることを学ばせる。そして、授業の中で正しい対処法（ストレスコーピング）を実践させ、自身の心の安定を図る力を育む。怒りの理解、不要な怒りの表現を未然防止、自身の心の安定が、より良い人間関係の構築へとつながることを理解させたい。法律の趣旨も踏まえながら、多可町心の健康教育の実践で、本校の教育目標である「優しく、賢く、逞しく～未来を切り拓く生徒の育成～」の具現化を図ろうと考えている。

3 指導計画（全3時間）

第一次	心のセルフケアを身につけよう	・・・	1時間
第二次	パーソナルスペース	・・・・・・	1時間
第三次	STOP！イライラ大作戦	・・・・	1時間（本時）

[別紙②]

4 本時の指導目標

- 怒りの影響を理解させる。
- 自分の怒りについて理解させる。
- イライラへの対処法を身に付けさせる。

5 人権教育の内容 3－(2)－ア【人間関係の活性化】

6 学習過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 前回の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パーソナルスペース ・ 最適緊張状態 ・ 援助希求 <p>2 本時の課題、取組を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (課題) アンガーマネジメントができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学ばせた内容が定着するよう復習させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「STOP！イライラ大作戦」に取り組む</div>	
<p>3 ストレス発生のメカニズムについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できごとのことを「ストレスサー」、意味付けをすることを「認知評価」ということを知る。 <p>4 怒りの影響を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現の仕方の影響を知る。 自分の心への影響／自分の体への影響 他の人に与える影響／経済への影響 <p>5 自分の怒りのパターンに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート①②に取り組む。 <p>6 怒りの対処法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ S：深呼吸(10秒呼吸法)を紹介し、実践する。 ・ T：その場から立ち去ればよいことを知る。 ・ O：落ち着きグッズについて知る。 ・ P：漸進的筋弛緩法を実践する。 <p>7 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句にこだわらない。 ・ どんな影響があるのか考えさせる。 ・ 指導者が一方的に知識を伝えるのではなく、質問形式で授業を進める。 ・ 養護教諭と共に机間指導をして、指示を理解できていない生徒の支援をする。 ・ 怒ってしまったときどのようにすればよいのかを考えさせる。 ・ 発表したい生徒がいれば、発表させる。 ・ 感想を発表させる。 ・ グーグルフォームを使わせる。 ・ 「STOP」を理解させる。

ができるようになる

に気をつける

「 」と弱音を吐けることは大切なこと【援助^{えんじよ}希^き求^{きゆう}】

A選手とB選手のどちらを選びますか。

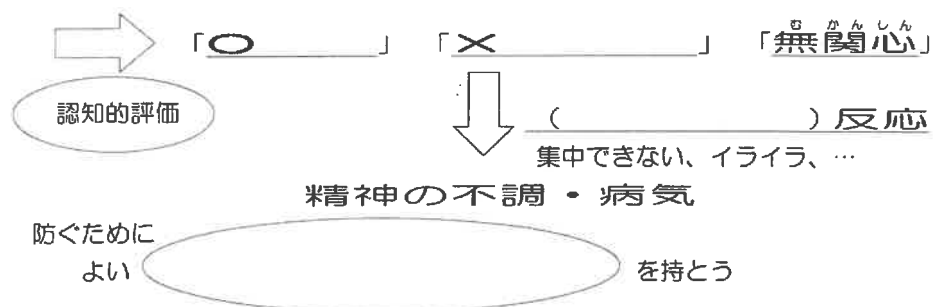
- ・うまい
- ・強気
- ・態度が悪い
- ・気に入らないことがあると
すぐにキレル／スネる



- ・うまい
- ・生活態度良好
- ・素直で優しい
- ・A選手よりへた



できごと：（ ）



< 「怒り」 とは…？ >

怒り = _____ な感情 → ※ _____ の仕方をコントロールすることが大切

< 怒りの影響 >

①ココロに与える影響

怒りが習慣化 → 怒りが続く → 気持ち不安定 → 落ち込み・罪悪感

②カラダに与える影響

カラダが戦闘モードになって、余分なエネルギーを使うことになる

慢性化すれば病気になりやすくなる

他人や自分が傷つく

③人に与える影響

ケンカが増える 仲間関係がうまくいかない

④経済に与える影響

暴力的な行動による器物破損 人へのダメージ



< 「怒り」 への対処方法 >

S_{TOP} ... 「 _____ 呼吸」

S_TOP ... 「 _____ ち _____ る」

ST_OP ... 「 _____ ちつきグッズ」

STO_P ... 「 _____ 」 漸進的筋弛緩法等



【振り返り】

STOP! イライラ大作戦

年 組 名前 ()

次に書いてあるのは、だれかを怒らせてしまうような場面のリストです。

そんなことがあったら、自分は必ず「キレて」しまう! と思ったら..... ◎

そんなことがあったら、自分は必ず「キレて」しまうかな? と思ったら..... ○

そんなことがあったら、自分は少し「ムカつく」かな? と思ったら..... △

そんなことがあっても、自分は「ムカつく」ことはない。大丈夫と思ったら... OK

を、それぞれの () の中に書き入れてみましょう。

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| () かげぐちを言われたとき | () どなられたとき |
| () 勉強や宿題ができないとき | () だれかにゲームのじゃまをされたとき |
| () だれかがケガをさせられたとき | () やりたいことを禁止されたとき |
| () だれも遊んでくれないとき | () だれかが自分よりも注目されたとき |
| () だれかにずるいことをされたとき | () だれかにイヤな呼ばれ方をされたとき |
| () 大事な試合に負けそうなとき | () 自分ばかりがおこられたとき |
| () 家族の悪口を言われたとき | () 持ち物がこわれたとき |
| () 自分の友だちがいじめられたとき | () 持ち物がぬすまれたとき |
| () だれかにうそつきと言われたとき | () 集中したいのに周りうるさいとき |
| () だれかに背中を押されたとき | () やりたくないことをしなくてはならな
いとき |

- () 友だちのいるところでしかられたとき
- () 何かのじゃまをされたとき
- () 自分に順番がまわってこないとき
- () 他の人が怒っているとき
- () 自分の話を聞いてもらえないとき
- () 自分のことがわかってもらえないとき
- () 欲しいものが手に入らないとき

ほかに、何かムカついたりキレそうになる原因がありますか?

(1)

(2)

(3)

STOP！イライラ大作戦

年 組 名前 ()

次のうち、あなたが怒りを感じているときに出てくるサインはどれでしょう？
あてはまるものを○でかこんでみましょう。

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| ・手のひらに汗をかく | ・目を見開く | ・せきをする |
| ・のどがつかえる | ・鼻水がでる | ・口がかわく |
| ・心臓がドキドキする | ・眠くなる | ・ゲップがでる |
| ・泣きたくなる | ・筋肉がかたくなる | ・くしゃみがでる |
| ・息が荒くなる | ・お腹がチクチク痛む | ・鳥肌が立つ |
| ・歯を食いしばる | ・ひざがガクガクする | ・顔が赤くなる |
| ・手をぶらぶらさせる | ・歯をカチカチ鳴らす | ・まばたきをする |
| ・頭痛がする | ・声がふるえる | ・笑う |
| ・イライラする | ・めまいがする | ・トイレに行きたくなる |
| ・ほほえむ | ・楽しいことを考える | ・リラックスしている |
| ・あくびがでる | ・強気になる | ・拍手する |
| ・ヒフ(肌)がかゆくなる | ・だれかを傷つけようとする | ・にぎりこぶしを作る |
| ・顔が熱くなる | ・しかめ面をする | ・物を壊す |
| ・汚い言葉を使う | ・だれかをにらむ | ・大声をだす |
| ・黙る | ・くちびるをかむ | ・涙がでる |
| ・にらむ | ・悲しくなる | ・つばをはく |
| ・うれしくなる | ・さびしく感じる | ・走りたくなる |

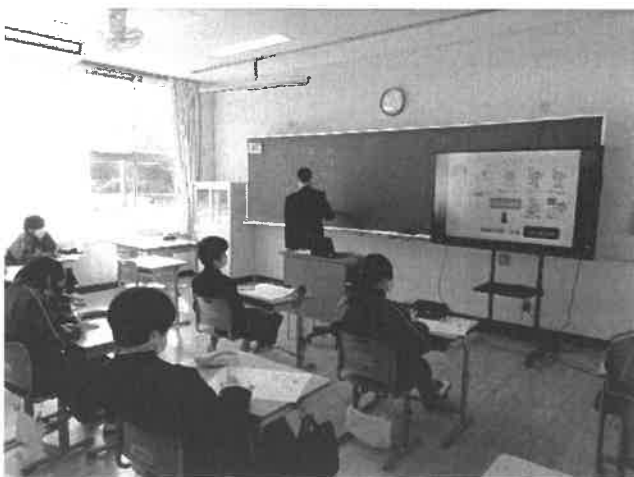
このほかに、ムカつく！キレそう！というときに、あなたはどんな状態になりますか？
書いてみましょう。

[別紙⑦]

<生徒感想>

- ・自分がされたら怒ってしまうことを見てみたら、自分は意外と怒りやすい人なんだなと思いました。だから、ぼくはとくに深呼吸などが必要だなと思いました。怒らないでいようと思っても、人は絶対に怒ってしまう時があると思うから今日習ったことを大事だなと思いました。
- ・今日の授業をして、怒ると自分が不幸になると思いました。自分が怒っているときにサインは大声をだしたり、イライラするというのが考えて多かったです。怒ったときには、立ち去り一人だけの部屋で、違うことを考えたりしてゆっくりしたいです。
- ・アンガーマネジメントということばを初めて聞いて、怒ったときの対処法は今まで深呼吸ぐらいしか分からなかったけど今日の授業でいろいろあることを知ったので使いたいなと思いました。
- ・今日の心の学習で、たくさんの理由でイライラしてしまうことがあったので、これからはしっかりとイライラした時は深呼吸をしたり、「STOP」の合言葉をしっかりとできたら良いなと思いました。
- ・今日、怒りの対処法について学んで、怒りは、人を不幸にするんだなと感じたので、しっかりコントロールしていきたいなと思います。そして、アンケートでは、自分の怒りについてよくわかりました。これからは、アンガーマネジメントを大切にしていきたいです。

<授業風景>



(様式3)

令和4年度新たな課題に対応した人権教育研究推進校事業報告書

学 校 名	多可町立八千代中学校			校長名	神崎 進吾		教員数	1 6
所 在 地	〒 6 7 7 - 0 1 2 1 多可郡多可町八千代区中野間 6 8 0 番地 TEL (0 7 9 5) 3 7 - 0 0 4 9 FAX (0 7 9 5) 3 7 - 1 6 0 9 Eメール yachiyo-jr-hi@edu.takacho.jp							
学 年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特別支援学級	計
学 級 数	2	2	2				3	9
児童生徒数	4 3	3 8	3 9				9	1 2 9

研究の概要

1 研究主題

「思いやりの心をもち、互いに認め合い、支え合う生徒の育成」
～自律・自立を促し、自尊感情を育てる～

2 研究の経緯

昨年度の課題として、いじめやいたずら、けんか等でしんどさを抱えて学校生活を送っている生徒がおり、本校がすべての生徒にとって安心して学び、生活する環境が十分に整っていると言えないことがあがっている。また、特別な支援を要する生徒や、基礎学力に不安があり学力に起因して自尊感情が低い生徒が多い傾向にある。長期欠席者も1年生5名、2年生2名、3年生3名と依然増加傾向にある。このような現状の中、今年度以降も自分の大切さとともに他人の大切さも認めるという当たり前の人権感覚を確実に育んでいくこと、そして、一人ひとりの自律・自立を促し自尊感情を高める組織的な取組を通じて、思いやりの心をもち、互いに認め合い支え合う生徒を育成していくことを目標に研究を行った。

新たな課題に対応するための体制、組織づくりとして、まず、学校経営方針の一番の柱として、「いのちと人権を守る教育～人権教育を土台とした教育の推進～」を位置付け、「新たな課題に対応した人権教育研究推進委員会」（校長、教頭、人権教育研究推進教員、各学年1名の人権教育担当教員で構成）を組織し、取組の計画・実践を行った。

新たな課題に対応した指導内容、方法の充実方策については、次の5点を柱として、実践に取り組んだ。

(1) 新たな課題に対応した人権教育資料の効果的な活用

昨年度から引き継いでいる「多可町人権コアカリキュラム」に基づいた、各学年の道徳科の年間計画に位置付けられた4時間程度の人権課題をテーマとした授業の資料の見直しやカリキュラムの再編成を行った。また総合的な学習の時間の中にも「人権コアカリキュラム」に基づく人権の歴史をテーマとした3年間の系統的な学びを組み込み、正しい歴史の知識や人権感覚の育成に取り組んだ。教科部会では家庭科で「男女共同参画」の授業を取り入れ、性差によって役割が固定されることのないよう、家庭の一員としての役割を考えさせた。地域全体の意識改革もめざして「おにぎり弁当」の日を制定し、生徒自身がおにぎりを作って弁当にすることで、家庭との連携強化にも努めた。特活部会では「ネットモラル」をピックアップし、「事例で学ぶネットモラル（広島教販）」を活用して、より生徒の生活に密着したトラブルをテーマに、トラブルを回避する力の育成やトラブルに巻き込まれたときの対処法の学びをすすめた。

(2) ユニバーサルデザインを取り入れた授業の推進

一人ひとりの生徒が大切にされる分かりやすい授業をめざしユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組んだ。授業中、黒板に集中させるために教室前面には掲示物を貼らない。授業の始めに本時の学習内容、授業の流れをあらかじめ知らせる。また、授業の終わりには、その時間の授業をふり返る時間をもつ等、全ての授業に共通した取組を行った。授業の改善にあたっては、多可町の学力向上推進アドバイザーの助言をいただいた。人権教育の視点に立ち参加体験型の授業を取り入れていくことで、どの生徒も参加しやすく達成感を得やすい授業形態へと改善を進めた。

(3) 体育祭や文化祭等の行事や生徒会活動を生徒主体で取り組み、達成感を味わわせ自己有用感を育んだ。コロナ禍であり活動に制限のある中での実施となったが、各取組を企画立案の段階から生徒会役員を中心に生徒主体で進め、運営も生徒主体で行った。教員はサポート役に徹し、準備段階に時間をかけてフォローを行い、全校生の前には全面的に生徒を立たせ、やり切らせた。

(4) 「心の健康教育」の推進

総合的な時間を活用し、人権スキルの学習に取り組んだ。日常生活におけるストレスを生徒自身が自己分析し、その対処方法を学ぶ「心の健康教育」を実施し、自分自身の心と体を大切にするとともに、他の人の心と体を大切にする手法を身に付けさせた。1学期は共通教材として「心の天気」、2学期は1年生「パーソナルスペース」、2年生「ネガティブ感情」、3年生「ストレスコーピング」の授業を実施した。3学期は1年生「アンガーマネジメント」、2年生「ストレスコーピング」の授業を実施した。

(5) 年2回のストレスチェックと教育相談、年間3回の学校生活相談シート、定期テスト前の教科ごとの学習相談、日々の生活ノートや不定期の放課後の担任との面談を通して、いじめや悩みごと（学習の悩みも含む）の未然防止、早期発見、早期対応を行った。

3 研究の成果と課題

学校評価を前期（7月実施）と後期（2月実施）の2回実施しており、前期と後期を比較した結果、次のような成果と課題が見られた。（※回答は5点満点）

「学級で楽しく過ごしている」（4. 3 P・・・+0. 1 P）「働くことの意義を理解し、将来の夢や目標の実現に向けて努力している」（4. 1 P・・・+0. 2 P）「卒業後の進路についての目標を持っている」（3. 8 P・・・+0. 2 P）この結果から、特に「キャリア教育」に関する項目で、改善が見られる。特に3年生では「卒業後の進路についての目標を持っている」（4. 6 P・・・+0. 3 P）1年生では、「多可町（八千代）が好きである」（4. 6 P・・・+0. 1 P）と高い数値がでている。「進路指導」や「ふるさとキャリア教育」など系統立てたキャリア教育の効果が出ていると思われる。また、「自分のことや他人のことを大切にしている」（4. 3 P）「いじめにつながらないように相手の気持ちを考えながら生活している」（4. 3 P）「八千代中学校が好きである」（3. 7 P）「多可町（八千代）が好きである」（3. 9 P）これらの設問については前年度からの数値をほぼ維持している。特に3年生は前年度、課題が多かったが、今年度は大きく「いのちと人権を守る教育」と「豊かな心の育成」に関する観点において高い数値となった。これらの結果から、2年間人権感覚をより高め、生徒の自律・自立を促し、自尊感情を高めることに焦点を置いた本実践の成果がうかがえる。

課題としては、学年間で差が大きいということである。1年生と3年生は「前期」と「後期」において大きな変動はなく、比較的高い数値であるが、2年生が「前期」と「後期」を比較すると多くの項目でマイナスの数値となった。特に「先生はいじめを許さないという姿勢の下、いじめが発生した場合は、適切に指導されている」の設問では1・3年生は（4. 1 P）と高い数値であるが、2年生が（3. 5 P・・・-0. 8 P）と低い数値となっている。2年生で生徒間のトラブルが続き、まだ解決に至っていないことが浮き彫りとなる結果になった。

さらに、「心の健康教育」を通して浮き彫りになったことが、「言語能力」の習得に課題があると、人間関係のトラブルにつながっていることである。ことばで上手く自分の感情をアウトプットできない生徒は、周囲にSOSを出せない。その困り感を解消するために暴力という手段をとってしまう生徒もいるし、はけ口をネットの中に求めてトラブルに巻き込まれる生徒もいる。また、相手の感情をことばで読み取ることが苦手な生徒ほど、生徒間のトラブルは多い。従来の正しい人権感覚を養うこと

を基盤にした「人権教育」に取り組む中で、「特別支援」の観点での教育体制を整えることはもちろん、「学力（語彙力・話す力・聴く力・表現力・論理的な思考）向上」の視点も人権課題に応じた一つの取組として組み込むことが必要だと感じる。今後、「人権教育」と「特別支援教育」と「学力向上」のより密な連携体制に取り組むことが重要である。

八千代中学校全体を通じ、不登校生の割合や、学力的に支援を要する生徒の割合も高いなど、まだまだ課題は山積である。これらの課題点も真摯に受け止め、引き続き、自分の大切さとともに他人の大切さも認めるという当たり前の人権感覚を確実に育んでいくこと、そして、一人ひとりの自律・自立を促し自尊感情を高める組織的な取組を通じて、思いやりの心を持ち、互いに認め合い支え合う生徒を育成していきたい。